

地元書家・茂住さん
2点大作が常設に
飛驒古川さくら物産館

飛驒市古川町出身の書家
茂住菁邨さん(六七)による作
品「雲外蒼天」が、同町の
飛驒古川さくら物産館で常
設展示されている。

作品は昨夏に古川町商工
会青年部が町内で催したイ
ベントで、茂住さんが書道
パフォーマンスとして制
作。同市河合町の特産品
「山中和紙」に書いた四文
字は、新型コロナ禍を念頭



除幕する茂住さん(右から3
人目)ら＝飛驒市古川町で

に「努力した先には希望が
待っている」という意味を
持たせて青年部が選んだ。
大きさは約二坪四方で、額
装は地元の業者が山中和紙
などを使って手がけた。

二十三日には現地で披露
会があり、茂住さんと都竹
淳也市長らが除幕。茂住さ
んは「書いたものを大事に
してもらえてうれしい。こ
んなふうに見てもらえるこ
とで恩返しができてありが
たい」と感激した様子で話
した。

青年部の木戸脇三雄部長
は「飛驒古川の名物になっ
て観光客や地元の人が集ま
り、いろんな観点から古川
が盛り上がれば」と期待し
た。

(吉本章紀)